

Dグループ  
LGBTQ+多様な性を語ろう  
～性の多様性を認め、人々が暮らしやすい高知へ～

高知学園大学 大坪 蘭李 / 高知大学 中越 音羽 / 高知大学 横田 銀大



D  
GROUP

私たちのグループは「LGBTQ+」について考えました。

まず、暮らしやすい高知にしていくためには、イメージを変えることが必要だと思いました。そして、性について考えたときにおかしいなと思った疑問点があります。

一つ目は、学校です。イメージを変えるためには、学校の教育を変えていくこと、学校の設備の多様化が必要だと思います。学校の教育で変えられる点としては、例えば、「ちゃん付け」と「君付け」を全部「さん付け」にすることや、水泳の授業を選択制の授業にすることなどが挙げられます。当たり前を変えていく授業を小さいころからしていくことで、何年、何十年経ったあとに、当たり前が変わった世界になるのではないのでしょうか。



次に仕事や社会についてです。仕事量や業務内容など男女で求められる違いがあるので、性として区別するのではなく、一個人として一人を見ることや、無理に区別をしないことが、イメージを変えるために大事なことでないかと考えました。

さらに、家庭環境、同性婚などについては、さまざまな情報源（SNSやテレビなど）から家庭の概念を変えることで、お父さん、お母さんがいる家庭が当たり前ではなく、お母さんが2人いる家庭も当たり前で、子どもがいる、いないが重視されないことも大事であると考えました。



暮らしやすい高知をつくるためには、同性婚の制度を市町村だけでなく、高知県全体として行い、若い人に限らず年配者の方にLGBTQ+を周知することも重要だと思います。さらに、公共施設の構造も変えることも必要であると思います。例えば、「多目的トイレ+aみんなのトイレ」のような、障害をもった方だけでなく、多様な人々が使えるトイレをつくることも必要であるという意見が出ました。

